



深萱農村舞台 A

深萱の十二社神社には、拝殿と芝居小屋が一つになった珍しい農村舞台が保存されています。廻り舞台、セリ、太夫座、花道などを備え、昭和20年代までは農村歌舞伎が演じられていました。4月には、祭りで子踊りが披露されています。県の有形民俗文化財に指定されています。



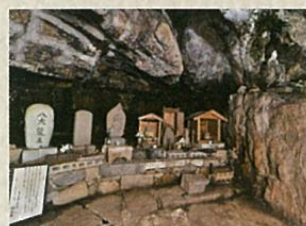
猿啄城展望台 B

猿啄城展望台は、1997年12月に、坂祝誕生100周年を記念して、標高276mの城山山頂に建てられました。展望台からは、日本ライン(木曾川)の美しい流れや坂祝の町はもちろん、遠く中央アルプスや御嶽山などの山々を望むことができます。



猿啄城跡 B

永禄8年(1565年)、織田信長的美濃攻めにより攻略され、河尻鎮吉が城主となりました。その折に、猿啄から勝山へと地名を改めたとされています。山頂までは30~40分ほどの自然散策が楽しめます。



岩屋観音 C

国道21号沿いの山麓に岩屋観音が祀られています。日本ラインを眺める絶好の地に位置し、近隣の人たちはもちろん、古くは中山道の旅人たちからも厚く信仰されていました。毎年7月には祭礼が営まれています。



うとう峠入口 D

江戸時代に中山道が整備された際に、太田宿と鷺沼宿を結ぶ道としてうとう峠が開かれました。この付近は木曾川で削られた断崖絶壁であり、交通の難所でもありました。



飛騨木曾川国定公園・日本ライン E

長い年月をかけ、水や風が少しずつ削り取ってきた奇岩や、彩を加える木々が美しい日本ライン。国定公園にも指定されており、雄大な自然を体感できます。



町民ふれあいプール F

流水プールや25mプール、幼児用プールなどがあり、家族で楽しめます。その中でも、全長70mと30mの2種類のウォータースライダーは、子どもたちに大人気です。



安楽寺 G

本尊は聖観世音菩薩で、木曾義仲の守り本尊であったと伝えられています。また、神土村(現 東白川村)から移された西国三十三所の観世音菩薩も安置されています。



日本ラインロマチック街道 E

坂祝周辺の木曾川は、ヨーロッパのライン川に景観が似ているとして、「日本ライン」と呼ばれ飛騨木曾川国定公園に指定されています。付近には、全長4キロのロマチック街道が続いており、木曾川の景観を眺めながら散策することができます。



行幸公園 E

昭和2年11月に昭和天皇が木曾川をご鑑賞されたときにおたちになられた岩があり、当時の大野岐卓皇知事によって「行幸巖」と命名されました。平成3年に木曾川を一望できる公園として整備されました。



西国三十三所観世音菩薩(安楽寺) G

明治初期までは東白川村の茶庵堂にまつられていましたが、明治3年に苗木藩が行った廃仏しやくから仏像を守ろうとした村人により、安楽寺へと運ばれました。



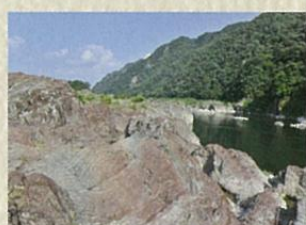
火塚古墳 I

上円下方式古墳の形式をとっており、石室の保存状態もよく、古代の様子を知る手掛かりとなっています。現在は内部の石の崩落の恐れがある為、石室内へ入ることはできません。



坂祝神社 H

加茂山の南に鎮座し、かつては統治法の総氏神としてあがめられていたとみられ、「延喜式」神明帳に「坂祝神社」と記され、坂祝の地名の由来とされています。



チャート層 E

約2億1500万年前の三畳紀後期に巨大な隕石衝突が起こった証拠が木曾川岩石のチャート層から発見されました。地質学の研究対象として多くの関係者が訪れます。